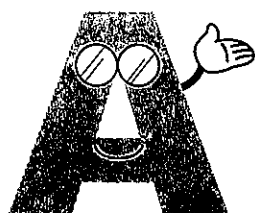




アンケートからの質問

「個別支援計画への記載について」

個別支援計画は、利用者ニーズの計画書と説明を受けてきましたが、身体拘束の内容を個別支援計画に記載することは、なぜ必要なのでしょう。



アドバイス・対応例

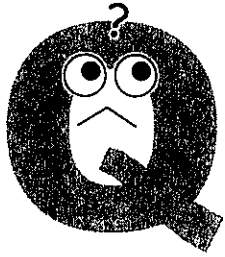
個別支援計画では、実際のサービスの提供内容の透明化を求められています。課題となる行動が起こり手続きを踏んで抑制または、身体拘束する状況が起きた場合、どのように事業所が対応をするのか利用者や家族も知らないと不安だと思います。個別支援計画の中に課題となる行動についての対応を記載し説明を行うことにより、利用者と支援スタッフの範囲だけでなく、家族等も含めて課題となる行動の解決に向けた話し合いのきっかけになれば良いと思います。

個別支援計画記載例

	課題・ニーズ	目標	サービス内容 (支援方法)	評価
対人関係・ 情緒 コミュニケーション	特定の利用者との トラブルを減らし、 落ち着いた生活を送りたい。	他害行為やトラブルの減少を図る。	他害行為が収まらない時や興奮したり大声を出して、落ち着かない時にはパーテーションを閉めたり、環境を変えて落ち着いてもらうため、居室へ誘導します。	他害行為がおさまらなかったり、ロビーにて大声や特定の利用者に向けての暴言がみられたりしました。その際は注意し、居室に誘導し落ち着くまで見守りを行いました。
	興奮した時等に、物を投げることもある。	物を投げない。	物投げがみられたら、中止して制止します。	物投げが見られた際には注意しました。 しかし、私物が物投げにより壊れることがありました。

※ P46・47の事例に対応しています。

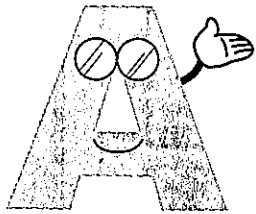




アンケートからの質問

「身体拘束に関する手続きについて」

パニックなどの時に物を壊してしまうことがある利用者が、居室での生活が長くなる場合も拘束と理解しています。拘束が長期になると予見される場合、家族に説明を行っています。その場合、どのような手続きや書類が必要でしょうか。



アドバイス・対応例

具体的な身体拘束を例に…。

利用者が暴れ出して危険だから、自由を制限するような対応をした。

これが何らかの身体的拘束を伴う関わりだとしたら…。

やむを得ず身体拘束を行う場合の3要件

① 3要件にあてはまるか (切迫性・非代替性・一時性)

3要件を満たしていること

- a 切迫性 (生命・健康の危険性がある)
- b 非代替性 (代替方法の検討⇒他に方法がない場合)
- c 一時性 (限定した時間・期間のみの実施であること)

② 慎重な手続きのもと実施されたか

附帯する3条件

- a 確認手続き (3要件に関するスタッフ会議等での検討記録の確認)
- b 説明と理解 (本人及び家族に目的・理由を具体的に説明する)
- c 観察と要件の解除 (状況観察・記録⇒非該当⇒即解除を行う)

③ 具体的な記録を残しているか

◎拘束や抑制ゼロの体制づくりをすすめる

「3要件をみたせば、身体拘束をしてよい」ということではない!

例えば、事業所や機関のなかで、「非代替性」の意味を間違えていないか? あるいは、「一時性」という要件を都合よく解釈し、長時間続けてはいないか?

また、手続きや記録が系統的でなく、ただ書けば良いというような記録になっていないか?

身体拘束の同意書と経過観察・再検討記録の書式例を掲載しましたので、参考にしてみてください。



事例1. 『縫合箇所をギプスで固定』する際の同意書 記入例

緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書

〇〇 〇〇 様

- 1 あなたの状態が下記のABCをすべて満たしているため、緊急やむを得ず、下記の方法と時間帯において最小限度の身体拘束を行います。
- 2 ただし、解除することを目標に鋭意検討することを約束いたします。

- A 利用者本人または他の利用者等の生命または身体が危険にさらされる可能性が著しく高い。
- B 身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替える看護・介護方法がない。
- C 身体拘束その他の行動制限が一時的である。

個別の状況に拘束の必要な理由	理由不明で、周囲の利用者に対する他害と物投げが続きました。その際、ガラスを足で蹴り足の第一指の付け根に裂傷をし出血しました。そのため、緊急受診を行い裂傷箇所の縫合を行っています。	
身体拘束の方法 〈場所・更衣・(部位・内容)〉	①縫合箇所が、自傷行為により抜糸を自身で行う事があるため、ギプスにより固定(治療開始前、電話で家族同意済み)。 ②縫合箇所の抜糸までの期間、居室ベッド周囲にセンサーマットの設置。 ③ギプスによる固定がなくなり、自立歩行ができるまでの間、車椅子の利用。	
拘束の時間帯及び時間	①ギプスによる固定は、裂傷箇所の抜糸が行われるまでの1週間。 ②センサーマットの設置は、就寝が確認されて起床するまでの間。 ③車椅子の利用について、夜間のトイレ誘導時と日中の生活時間。	
特記すべき心身の状況	夜間のトイレについて、トイレ誘導支援の要請が自らできない。また、自らのケガの状態が判断できない様子がある。転倒の可能性があっても目的のある場所に向かう。	
拘束開始および解除の予定	抜糸予定の受診が、4月8日の午前にあります。その時の医師の指示に従います。抜糸後の生活状況を点検して解除を行います。	〇年4月1日 15時から 〇年4月8日 13時まで

上記のとおり実施いたします。

〇年〇月〇日

施設名 代表者 □□

印

記録者 △△

印

利用者・家族の記入欄

上記の件について説明を受け、確認・同意いたしました。

〇年〇月〇日

氏名 〇〇

印

(本人との続柄 〇〇)

※本様式は、「身体拘束ゼロへの手引き」(厚生労働省、2001年)を使用しています。



事例 1. 『縫合箇所をギプスで固定』する際の経過観察・再検討記録 記入例

緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察・再検討記録

利用者

〇〇 〇〇

様

拘束開始・解除予定	検討月日時	日々の心身の状態等の観察・再検討結果	カンファレンス参加者名	記録者サイン
開始 ○年4月1日 AM11時 解除予定 ○年4月8日	○年4月1日 11:00	拘束について現場での確認 理由不明で、周囲の利用者に対する他害と物投げが続きました。その際、ガラスを足で蹴り足の第一指の付け根に裂傷をし出血しました。そのため、緊急受診を行い裂傷箇所の縫合を行っています。 ①縫合箇所が、自傷行為により抜糸を自身で行う事があるため、ギプスにより固定(治療開始前、電話で家族同意済み) ②縫合箇所の抜糸までの期間、居室ベッド周囲にセンサーマットの設置 ③ギプスによる固定がなくなり、自立歩行ができるまでの間、車椅子の利用	病院にて 支援員A・看護師	A支援員
	○年4月1日	拘束についての検討会議 経過説明 ケガの状況確認・拘束状況の確認 後見人・家族に拘束について同意書の説明とサイン	〇〇施設男性棟 施設長・主任支援員 ・A支援員・看護師 後見人・家族	主任
	○年4月1日 1:30	夜間1:30にセンサーマットが鳴る。 〇〇さんがトイレに行こうとして廊下まで出ていた。転倒が予想できるため、車椅子に移乗してもらう。 排尿有。 排尿後、ベットまで車椅子で移動。		夜勤 B支援員
	○年4月4日 15:00	車椅子固定ベルトを外して、急に走り出す。 歩行が不安定で、危険と判断。 行動を制止して、車椅子に移乗してもらう。 居室に戻り、落ち着くまで様子を見守る。		C支援員
解除 ○年4月8日 PM12:00	○年4月8日	拘束解除のための検討会議 病院にてギプスによる保護を取り外した後、歩行を確認。 ふらつくことなく歩行できる事を確認したため、①②③を解除する。 家族に報告	〇〇施設男性棟 施設長・主任支援員 ・D支援員・看護師	主任

※本様式は、「身体拘束ゼロへの手引き」(厚生労働省、2001年)を使用しています。



事例2. 『突然起こる他害行為等』への同意書 記入例

※ P42 の個別支援計画記載例に対応しています。

緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書

〇〇 〇〇 様

- 1 あなたの状態が下記のABCをすべて満たしているため、緊急やむを得ず、下記の方法と時間帯において最小限度の身体拘束を行います。
- 2 ただし、解除することを目標に鋭意検討することを約束いたします。

- A 利用者本人または他の利用者等の生命または身体が危険にさらされる可能性が著しく高い。
- B 身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替える看護・介護方法がない。
- C 身体拘束その他の行動制限が一時的である。

個別の状況に拘束の必要な理由	周囲の利用者に対する他害や大声・物投げが続くことがあります。	
身体拘束の方法 (場所・更衣・(部位・内容))	他害行為が収まらない時や興奮したり大声を出す・物を投げる等、落ち着かない時には、廊下のパーティションを閉めたり、環境を変えて落ち着いてもらうため、居室へ誘導します。	
拘束の時間帯及び時間	①他害行為が、予見されそうな状況。他害が起きた時 ②大声で特定の利用者に向けての暴言があった時 ③物投げがあった時 以上の状況の時、落ち着くまでの間、廊下のパーティションの施錠又は、居室に誘導して見守りを行います。	
特記すべき心身の状況	常に他害や大声・物投げがあるわけではありません。友だちとのコミュニケーションが十分出来ない時や思いが達成されない時・予定が思いと違う際等に起こるようです。興奮した状況は長く続きません。静かな環境があれば落ち着く事が出来ています。	
拘束開始および解除の予定	拘束が必要な状況が起これば、記載する拘束の方法を行います。拘束の必要が無くなり次第直ぐに解除します。経過記録に随時記録を残します。中間評価で再度検討を行います。拘束を必要としなくなるように構造化・手立て・医療・人的配慮等を今後も検討していきます。	<p>〇年 4月 1日 10時から</p> <p>〇年 10月 1日 18時まで</p>

上記のとおり実施いたします。

〇年 〇月 〇日

施設名 代表者 □□

印

記録者 △△

印

利用者・家族の記入欄

上記の件について説明を受け、確認・同意いたしました。

〇年 〇月 〇日

氏名 〇〇
(本人との続柄 〇〇)

印

※本様式は、「身体拘束ゼロへの手引き」(厚生労働省、2001年)を使用しています。

事例2. 『突然起こる他害行為等』への経過観察・再検討記録 記入例

※ P42 の個別支援計画記載例に対応しています。

緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察・再検討記録

利用者

〇〇 〇〇

様

拘束開始・解除予定	検討月日時	日々の心身の状態等の観察・再検討結果	カンファレンス参加者名	記録者サイン
	検討会議 〇年4月1日 AM10時	拘束についての検討会議 経過説明 拘束が必要となる状況と3要件について説明 後見人・家族に拘束について「同意書」と「個別支援計画」の同意を得る。	〇〇施設男性棟 施設長・主任支援員 ・A支援員・看護師 後見人・家族	A支援員
拘束開始 〇年4月5日 PM12:00	〇年4月5日 PM12:00	拘束について現場での拘束3要件の確認。 突然、近くにいた利用者のYさんを蹴るという 他害が起こり他の利用者にも向かっていく状 況が起こる。他の支援員に協力を要請する。	主任支援員・A支援 員・B支援員	主任
解除 〇年4月5日 PM12:30	〇年4月5日	居室に誘導し、落ち着くまで見守り一緒に過 す。大声が徐々に小さくなり、「もう、大丈夫」 の言葉があり皆のいるロビーに戻ってもらう。	主任支援員・A支援 員・B支援員	B支援員
拘束開始 〇年6月14日 PM5:00	〇年6月14日 PM5:00	拘束について現場での3要件の確認。 他の利用者部屋に入り、衣類についているタ グを破いていた。他の支援員に協力要請を行 う。 気になる事から大声・他害と発展していく事が 予見できるため、環境の整理のために一時的 な行動制限を行うことを確認。	A支援員・B支援員・ C支援員	C支援員
解除 〇年6月14日 PM5:15	〇年6月14日	支援員が、衣類を片付けるまでの間、パーテ ィションを仕切り施錠して行動制限を行う。気 になるものを片付けた後にパーティションを開 ける。 その後、衣類がないことを確認した本人は、落 ち着いて過ごせた。	A支援員・B支援員・ C支援員	B支援員

※本様式は、「身体拘束ゼロへの手引き」(厚生労働省、2001年)を使用しています。